

大阪大学大学院文学研究科・文学部 懷徳堂センター

彙報（二〇〇五年四月～二〇〇七年一二月）

〔展示等〕

05年5月3日～8日 豊中市立市民ギャラリーにて、大阪大学連携展

「懷徳堂資料展」を開催し、「竹山履軒貼友屏風」などの資料や「バーチャル懷徳堂」を展示した。会期中の5月7日、井上了による資料説明を行った。豊中市・市教委・懷徳堂記念会等との共催事業。

05年8月6日～7日 豊中市立市民会館にて、企画展「大阪大学・懷徳

堂資料展」（豊中まつり二〇〇五）との連携事業）を開催し、谷文晁「帰馬放牛図」などの資料や「バーチャル懷徳堂」を展示した。会期中の8月6日に「大坂学問所「懷徳堂」の歴史」（井上了）、同7日に「奈良 大阪 墨の道」発見された懷徳堂の墨型」（湯浅邦弘）と題してそれぞれ講演を行った。懷徳堂記念会・大阪大学文学研究科主催、豊中まつり実行委員会共催、豊中市・豊中市教育委員会協賛。

05年8月9日～31日 豊中市民活動情報サロン（阪急電車豊中駅）にて、

パネル展示「大阪大学・懷徳堂センター活動の紹介」を行った。

05年10月14日～11月13日 広島県立歴史博物館にて、秋の企画展「黄葉夕陽村舎に憩う―管茶山とその世界Ⅲ―」が開催され、本研究科からは「中井竹山肖像画」「中井履軒肖像画」を貸出した。

06年9月29日～11月5日 鹿児島県歴史資料センター黎明館にて、黎明館企画特別展「祈りのかたち―中世南九州の仏と神―」が開催され、本研究科からは『延徳本大学』を貸出した。

06年10月30日～11月24日 大阪大学総合学術博物館にて、二〇〇六年秋の特別展「「みる科学」の歴史―懷徳堂・中井履軒から超高压電子顕微鏡まで―」が開催され、本研究科からは「青貝印匣」などの資料を出展した。

07年5月7日～13日 辰野ひらのまちギャラリー（大阪府中央区）にて、

「淀屋展―淀屋と大阪・船場―」（淀屋サミットとの連携事業）が開催され、本研究科からは「懷徳堂幅」などの資料を出典した。淀屋サミット実行委員会主催、せんばGENKIの会・船場ロータリークラブ・淀屋研究会共催、大阪市・大阪商工会議所・大阪21世紀協会後援。

07年10月12日～11月25日 広島県立歴史博物館にて、秋の企画展「学びの発見―寺子屋・私塾・郷校―」が開催され、本研究科からは「安永七年六月定」などを貸出した。

〔出版広報〕

05年6月16日 『平成16年度文化庁委託 全国の博物館・美術館における収蔵作品デジタルアーカイブ化に関する調査・研究事業 調査研究報告書』を本研究科より刊行した。

06年2月28日 『懷徳堂センター報2006』を本センターより刊行した。

07年2月28日 『懷徳堂センター報2007』を本センターより刊行した。

07年3月1日 『懷徳堂の印章』を本研究科より刊行した。

〔人事〕

本センター委員について、期間中の異動は無かった。委員長は平雅行、委員は飯倉洋一・湯浅邦弘（いずれも本研究科教授）。なお本センター非常勤職員として井上了が配置されている。

前号の彙報欄に誤りがありました。上記の通りお詫びして訂正いたします。（井上記）

二〇〇八年二月二十九日発行（通巻第五号）

懐徳堂センター報 2008

編集・発行

国立大学法人大阪大学

大学院文学研究科・文学部 懐徳堂センター

〒五六〇―八五三一 豊中市待兼山町一―五

電話 〇六―六八五〇―五〇八八

<http://www.jet.osaka-u.ac.jp/kaitoku-c/>

印刷・装丁

阪東印刷紙器工業所

〒五五三―〇〇〇四 大阪市福島区玉川三―六―四

電話 〇六―六四四三―〇九三六

本誌前号に誤植がありましたので下記の通り訂正いたします。

4頁上段9行×「藤野煙津」
〇「藤本煙津」

大阪大学大学院文学研究科・文学部懐徳堂センターでは、『懐徳堂センター報2009』（仮称）の原稿を下記の通り募集いたします。

【募集する原稿】

懐徳堂センターの諸活動および懐徳堂にかかわる論考。

【締切】

二〇〇八年一〇月末日。

【枚数】

四百字詰め原稿用紙に換算して五十枚以内。ただし資料翻刻や目録などで大部なものは、枚数の超過を認めることがある。

【形式】

打出し原稿およびテキストファイル。

本センターへ郵送または直接提出のこと。

【採否】

センター委員による審査を経て採否を決定し、結果を執筆者へ通知する。

【校正】

著者校正は再校まで。念校を本センターにて行う。

【刊行形態・刊行日】

二〇〇九年二月刊行予定。関係機関や研究者に寄贈。非売品。刊行物と同内容の電子ファイルを公衆送信化する。

【抜刷】

抜刷は作成しない。著者には原則として本誌五部を寄贈する。